

135 明治15年3月12日

(長閑注記) 第四号 明十五 三月十二日

度々御手紙被下たれ共忙し紛れに永々御無沙汰に相成候先達ハ
色々御登セ被下毎度難有存候波義ハ委細承知いたし候」ゼンソ

ク煙草并飴の御注文畏候鉄飴煎ハ三田と申人に頼たり」鉄道ハ
愈掛る積の内新橋鉄道払下の義も多分極り可申とハ存すれとも
猶確と聞配の上可申上」鉄道会社へ加入被成ても損ハあるまし
くと存す只先達も申上たる通り今一割前後に廻り居金を引出す
のハ余り好計にハ無之と存す」米の義能聞配て申上へし然し一
昨年（昨年）の価ハ非常のものなりし事ハ□もなき義と存す」備荒儲蓄
金にて公債を買上ると云ふ説ハ末た信せられねとも何しる逐年
闕当りの機会か強くなる理窟なれハ直段（直段）の好なり得ハ当り前な

るかとも思はる」御祖母様の御病氣ハ輕症なれハよろしく候」
 扱飴の効能ある事ハ近頃の發明にハ無之とも滋養に成義ハ即今
 の氣付なり間肺露とか鉄飴煎とか云ふハ専ら飴に手依りたる藥
 にて少しの違ハ有へきも飴のみを用るも同前の由或藥家の申に
 は毎日水飴を食叉子（少な茶吞茶碗に一杯位）に一杯宛二三返飲
 時ハ牛乳を吞より滋養になる由壳葉ハ直段貴きのみにて格別益
 なし水飴ハ安くて功能ありとの事なり」金錢出入勘定書ハ委數
 御調被下誠に分りよく候御骨折の段御察申し難有拜見仕候」大
 学の仕事ハ不相替忙しくて溜らない然し司法省の仕事よりもお
 もしろし」此前の日曜日に漸く暇を拵て亀井戸迄おるち諸共梅
 見に参り今日も亦人に誘はれ蒲田迄参りたり昔と違ひ蒸氣車か
 ある故大森迄纒十錢にて十分間に着すれハ半日にて余り縮くり
 過る位なり

父君

武夫

（長閑注記）

「三月十九日達ス」